

高原町教育研究所

I	研究主題	9-1
II	主題設定の理由	9-1
III	研究の目標	9-1
IV	研究仮説	9-2
V	研究構想	9-2
VI	研究内容	9-3
1	理論研究	9-3
	(1) 高原町が目指すふるさと学習	
	(2) 教科の時間におけるふるさと学習の指導計画、指導過程	
	ア 「霧島山」を中心とした地域素材	
	イ 「霧島山」を中心とした地域素材の指導計画、指導過程	
	(3) 総合的な学習の時間における、地域素材のデジタル化	
	(4) アンケートの実施と分析	
2	実践研究	9-8
	(1) 授業のねらい	
	(2) 指導計画	
	(3) 授業の実際	
	ア 本時の目標	
	イ 主な学習活動と授業の様子	
	ウ 授業の感想(児童)	
VII	成果と課題	9-10
1	成果	
2	課題	
	○ 参考文献	
	○ 研究同人	

I 研究主題

ふるさとを愛する「たかはるの子」の育成
～高原ならではの地域素材を生かした小中一貫教育の取組(3年次)～

II 主題設定の理由

今日子どもたちを取り巻く社会は、情報化、グローバル化等により時代が急変し、地域社会や学校における人間関係が希薄なものになっている。次世代を担う若者は、将来に不安を感じ、夢や目標をもって、前向きな生き方をすることが難しくなっている。

このような社会情勢の中で、私たちが指針としている宮崎の教育創造プランにおいては、「恵まれた自然、先賢の精神、豊かな人情などの本県の教育資源を生かしながら、『確かな力を基盤とした感動と感性の教育』を推進することをとおして、『ふるさとを愛し、自分に自信と誇りを持ち、夢や希望を抱いて、社会に貢献する気概を持つ子ども』の育成を目指す」としており、創造の視点1に「ふるさと教育の充実」を挙げている。

そして、「第2期 明日の宮崎を担う子どもたちを育む戦略プロジェクト」においては、地域ぐるみの教育環境推進を基盤とし、戦略2に「地域の特性を生かした多様な一貫教育の推進」を設定しており、県内各地で種々の先進的な実践が示されていくなかで本町も積極的な取組を進めているところである。

本町は、間近に見える霧島連山や裾野に広がる田園、その間を流れる清流等の美しい日本の原風景を地域の財産として生かし、児童生徒の郷土愛を高める教育を推進していくことが、今後一層社会の変革が進む中で、最も重視すべき課題であると考えている。そのために、小中一貫教育を積極的に推進し、高原中学校区及び後川内中学校区における合同研修会や合同授業研究会等を開催する等の小・中学校が連携した取組を推し進めている。

一昨年度に実施した実態調査においては、高原町の95%以上の児童生徒が「高原町のことを『とても好き』、『好き』」と回答しているにもかかわらず、「町鳥、町花、町木、町旗等を知らない」、「町の人口や主な産業を知らない」、「高原町のことをもっと知りたい、調べたいと思わない」、「高原町の自慢できることを誰かに教えたいと思わない」など、意外に知らないことが多く、身近なふるさとについての興味・関心が高いとは言えない結果であった。

昨年度は、高原ならではの地域素材を生かしたふるさと学習を充実するために、総合的な学習の時間における学習指導モデルを教育研究所で作成して、各学校でモデル授業を実践した。その結果、高原町に関係することへの興味・関心を示す児童生徒が増えてきている。

本年度は、昨年度までの実績と課題を踏まえ、「霧島山」を中心とした高原ならではの地域素材を関連付けた授業の指導計画等を作成し、郷土の自然や歴史、産業、伝統文化を高原町の児童生徒(小3～中3)に学習させる実践を試みることにした。また、各学校へ地域素材を関連付けた資料をデジタル化して配付することにより、児童生徒が身近な素材を基にした発展的な調べ学習をし易くするようにした。

このような取組を充実させていくことができれば、児童生徒の身近なふるさとへの興味・関心が更に高まり、「ふるさとを愛する『たかはるの子』の育成」ができると考え、本主題を設定した。

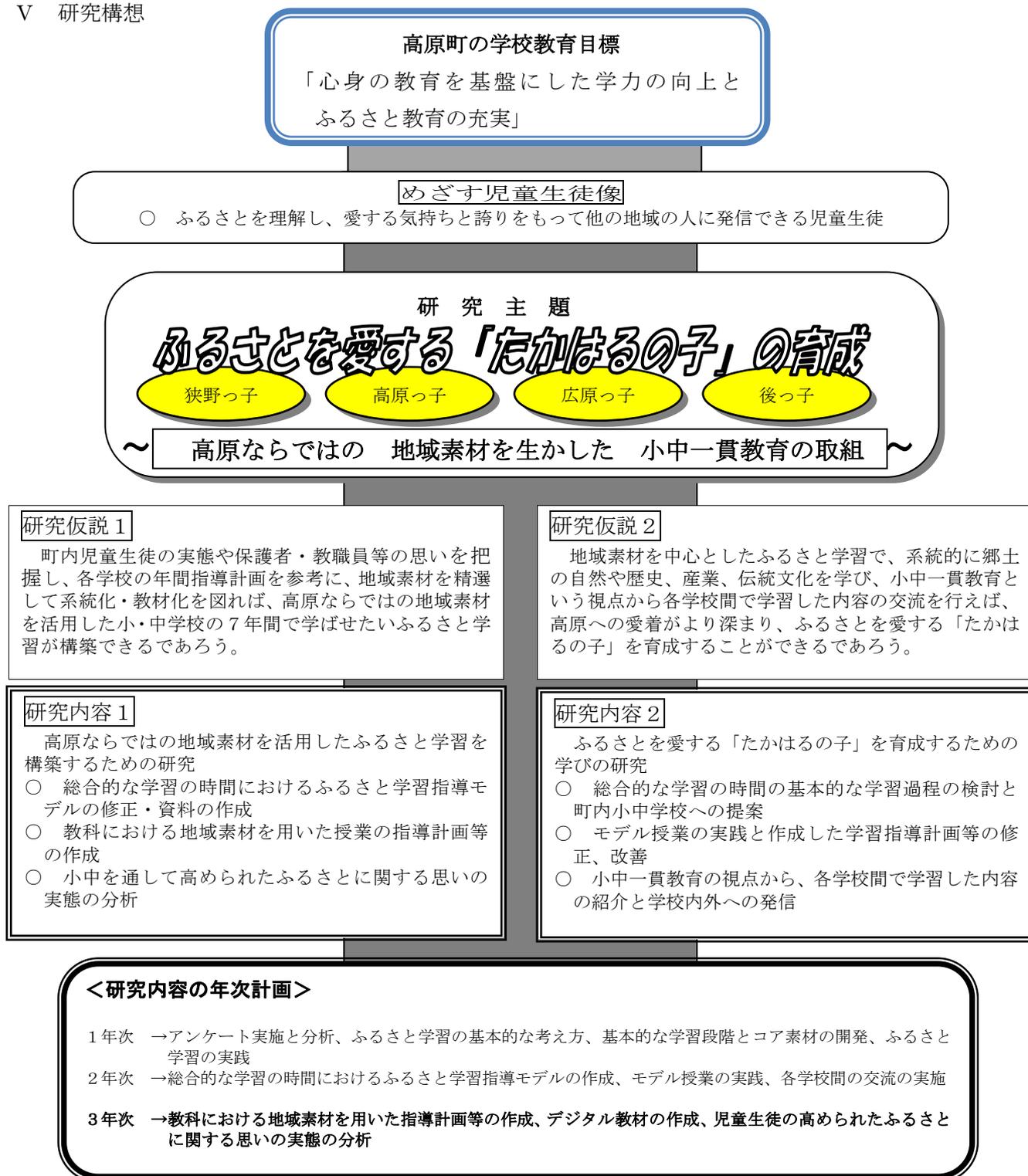
III 研究の目標

- 1 小・中学校の7年間(小3～中3)で学ばせたい、高原ならではの地域素材を関連付けた授業の指導計画等を作成する。
- 2 小中一貫教育の推進を図り、地域素材で系統的に郷土の自然や歴史、産業、伝統文化を学ぶことを通して、ふるさとを愛する「たかはるの子」を育成する。

IV 研究仮説

- 1 町内児童生徒の実態や保護者・教職員等の思いを把握し、各学校の年間指導計画を参考に、地域素材を精選して系統化・教材化を図れば、高原ならではの地域素材を活用した小・中学校の7年間（小3～中3）で学ばせたいふるさと学習が構築できるであろう。
- 2 地域素材を中心としたふるさと学習で、系統的に郷土の自然や歴史、産業、伝統文化を学び、小中一貫教育という視点から各学校間で学習した内容の交流を行えば、高原への愛着がより深まり、ふるさとを愛する「たかはるの子」を育成することができるであろう。

V 研究構想



VI 研究内容

1 理論研究

(1) 高原町が目指すふるさと学習

ふるさと学習では、町内の児童生徒に、ふるさとに関する正しい知識をもたせ、得た知識で本町のよさを知り、郷土愛を高めることをねらいとしている。

小学校3学年から中学校3学年までの7年間で、大きな3つのステージと発達段階に応じた基本的な考え方、各学年の目指す児童生徒像を下記のようにまとめた。

段 階	学 年	各段階の内容	各学年の目指す児童生徒像
知 る	小 3 ・ 小 4	3学年の社会科で本町について学習することを中心に、ふるさとに関わる知識を増やすことをねらいとする。 町章、町木、町花、町鳥や自然、歴史的な建物など、高原の具体的な事実を学習する段階。 「霧島山」についても概要を学び、基本的な知識を得る。	ふるさとについて町の概要や自然等高原町に関わる事項について、ふるさとを理解するために主体的に調べようとする児童（小3～5）
		「知る」段階での知識をもとに、歴史や事実の背景等、本町についてのよさをさらに掘り下げる段階。 「霧島山」については、今までに得た知識をもとに、「霧島山」のよさや恵みについて考える。 6年生では、小学校段階のまとめとして、「高原町の神話・伝説、文化財」についてテレビ会議システムを活用して発信し、他の学校との交流を通して、ふるさとについての知識を広げたり、よさを多面的に考えさせたりする。	
広 げ て 深 め る	小 5 ・ 小 6 ・ 中 1		ふるさとについての知識をもとに、町内の児童同士で、自分の思いを紹介し、多様な視点での本町のよさを認識することができる児童（小6）

(2) 教科の時間におけるふるさと学習の指導計画、指導過程

ア 「霧島山」を中心とした地域素材

本年度は、教科を一つ選択して、高原のシンボルである「霧島山」との関連が図られる単元（題材）を下記のように決め、町内の各小・中学校で統一して指導できるようにした。

小学校の単元・学習内容

学年	月	教科・単元名	学習内容
小3	4月	社会科 「わたしたちのまち、みんなのまち」	副教材をもとに、各学校の身近な場所を訪ね、新たな発見やインタビューをして分かったことなどをマップにまとめて発表する。
小4	10月	社会科 「山ろくに広がる用水」	学校近くの用水を調査し、用水の用途や仕組みを調べる。また、身近な用水に関する川や高千穂用水の写真などを授業に活用する。
小5	3月	社会科 「自然災害を防ぐ」	日本の自然災害を取り上げる中で、新燃岳の噴火の資料も活用し、日本の環境をテーマにしてまとめる。
小6	12月	理 科 「大地のつくりと変化」 ～大地の変化～	火山灰の観察をしたり新燃岳の火山活動について調べたりする。また、「霧島山」の副教材や、「霧島山」の模型を用いて学習を進める。

中学校の単元・学習内容

中1	1月	社会科 「世界から見た日本の自然環境」	日本の地形や気候の特色を調べ、日本の自然環境についてまとめる。その中で、新燃岳の噴火で経験したことや、「霧島山」の資料等を活用して、火山の仕組みや防災対策について考える。
中2	1月	英語科 「Yuki-to Share s to Live」	自分が住んでいる所や、今までに見た町内の印象に残る景色を紹介し、あわせて町内の素晴らしいところを発表する。

イ 「霧島山」を中心とした地域素材の指導計画、指導過程

学年で決定した単元（題材）をもとに、指導計画や指導過程を下記のような形式で作成した。

（例） 指導計画 （小4 社会科「きょう土に伝わるねがい」）

時間	主な学習内容及び活動	評価規準
1	○ 地域に残っている昔の開発について調べ、まとめる。 高原の川、用水の様子を調べる。	① 地域にある銅像や記念碑を調べようとしている。 ② 地域の開発に尽くした先人について調べようとしている。 ③ 先人と出来事の関連をまとめている。
2 3	○ 開発をする前の村の様子や村人たちの暮らしについて考える。 高千穂用水を作り上げた平島平太 左右衛門について知る。	① 水不足になることが多かった頃の村の生活と、村人の願いを考え、自分の考えを表現している。 ② 村人の願いをかなえるために、平島平太左右衛門が中心になって活躍したことを理解している。
4 5 6	高千穂用水について調べる。	① 高千穂用水の様子について調べようとしている。 ② 川と用水がどのようになっているかがわかる。

（例） 指導計画 （中1 社会科「世界から見た日本の自然環境」）

時間	主な学習内容及び活動	評価規準
1	○ 新燃岳の噴火について振り返る。 ○ 世界のおもな地震の震源と火山の分布図から、世界の地形には、どのような特色があるかを読み取る。 ○ 火山ができるしくみや霧島山のなりたちについて説明を聞く。・・・（霧島山学習用資料P3～6）	① 地震の震源と火山の分布図を読み取る作業を通して、両者が重なることに気付いている。 【思考・判断・表現】 ② 火山ができるしくみや霧島山のなりたちについて理解している。 【知識・理解】
5	○ 日本に見られる様々な自然災害について調べ、まとめる。 ○ 観測施設や技術の進歩により、自然災害の被害を少なくする努力がなされていることに気付くとともに、身近な地域で取り組まれている防災対策について考える。・・・（高原町防災マップ）	① さまざまな自然災害について、自然環境の特色と関連づけながら、理解している。 【知識・理解】 ② 防災への具体的な取り組みを意欲的に調べて発表するとともに、身近な地域における災害時の避難方法や避難場所などの在り方について考えている。 【関心・意欲・態度、思考・判断・表現】

(例) 指導過程 (中1 社会科「世界から見た日本の自然環境」 第1時)

段階	主な学習内容及び活動	指導上の留意点	資料・準備
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新燃岳の噴火について振り返る。 ○ 本時の学習課題を確認する。 ○ 火山の噴火や地震が、日本で頻繁におきるのはなぜか、調べてみよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新燃岳の噴火だけでなく、東日本大震災についてもふれ、日本は、地震や火山の噴火などの自然災害が多いことに気づかせる。 ・ 生徒の疑問や感想などを生かしながら、学習課題を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新聞記事等
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○ 世界の地形の特色を調べる。 ○ 資料から分かったことを発表する。 ○ 火山のでき方、霧島山の成り立ちについて理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書の景観写真や分布図を読み取る時間を十分に取り、分かったことをワークシートに書き出させる。 ・ 日本は、環太平洋造山帯に属し、地震や火山が活発な場所に位置していることをおさえる。 ・ 資料を使って、「西日本火山帯」についての説明を行い、あわせて、霧島山の成り立ちについてもふれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書 ・ ワークシート ・ 霧島山学習資料「ふるさとの山霧島山」

(3) 総合的な学習の時間における、地域素材のデジタル化

昨年度の研究で、総合的な学習の時間におけるふるさと学習の指導計画・指導過程を作成した。その際に、実際に授業で活用するための資料やワークシートを各学年分(小3～中3)作成している。これらを「冊子」として各学校に配付しているが、小学校の授業で活用する「3択クイズ」や「霧島山の写真」などPC資料については、各学校で準備しなければいけない状況であった。そこで、資料作成にかかる労力を無くし、各教員の負担をできるだけ少なくして、より授業がしやすい環境を整えるために、各資料やワークシートをデジタル化し、データを共有することにした。高原町内のネットワークが整っていないため、資料・ワークシートのデータをCDにまとめ、学校に持ち帰り、サーバーにおとすことで、どの教員でも自由にデータを活用できるようにした。

※三択クイズの例：高原町の町旗はどれでしょうか？

①



②



③



※画像素材

ミヤマキリシマ

天の逆錐

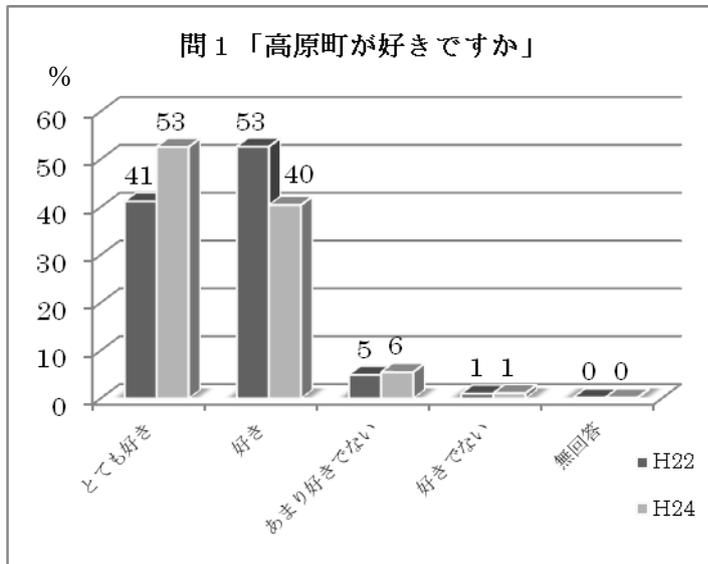
狭野神社

など

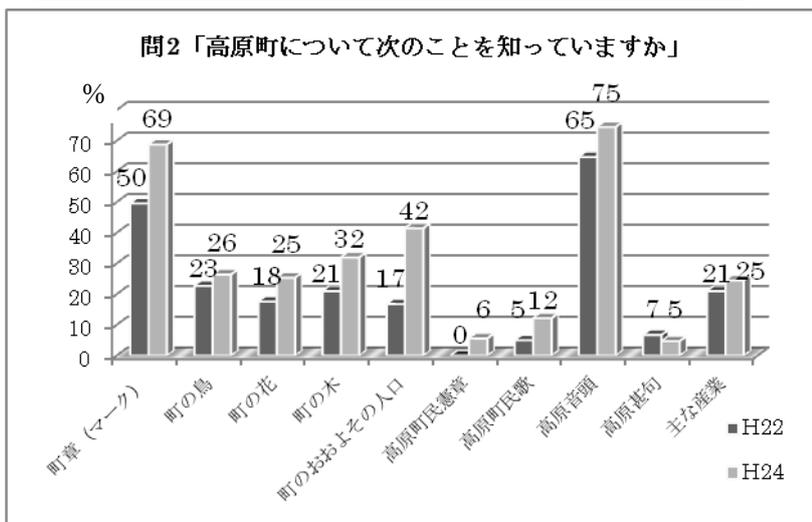


(4) アンケートの実施と分析

本研究を始めて3年目となるが、児童生徒の実態がどのように変容したかを見るために、児童生徒を対象にアンケートを実施した。内容は、1年目に実施した内容と同じものである。問別に集計し、一昨年の結果と比較し、検証を行った。アンケート結果と分析は次の通りである。

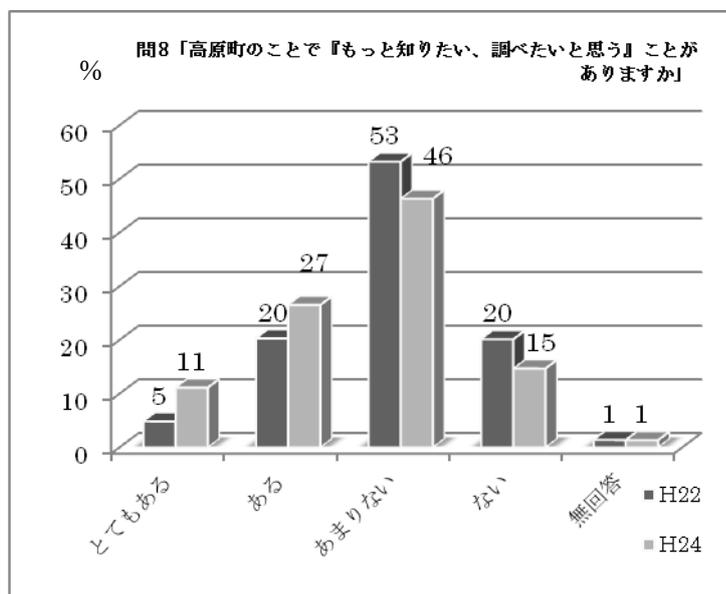


問1の「高原町が好きですか」の質問には、小・中学校共に「とても好き」の割合が41%から53%に増加している。好きと答えた児童生徒の割合が減っているが、このほとんどが「好き」から「とても好き」に移ったと考えられる。昨年からのふるさと学習により、高原町のことや霧島山、歴史について学習し、高原町のよさについての知識が増えたことが「とても好き」の気持ちにつながっているのではないかと考えられる。

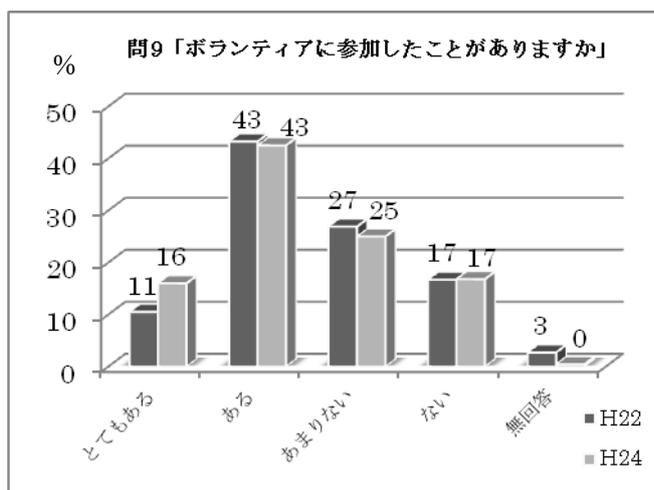


問2の「高原町について次のことを知っていますか」の質問では、一昨年に比べて、小・中学校共にほとんどの項目で「知っている」の割合が増加している。昨年度からふるさと学習で取り扱うようになったことが、主な理由だと考えられる。しかし、これらの項目についてどこまで知識があるかまでは、はっきりしていないので、学習を通じて確実に理解させていきたい。

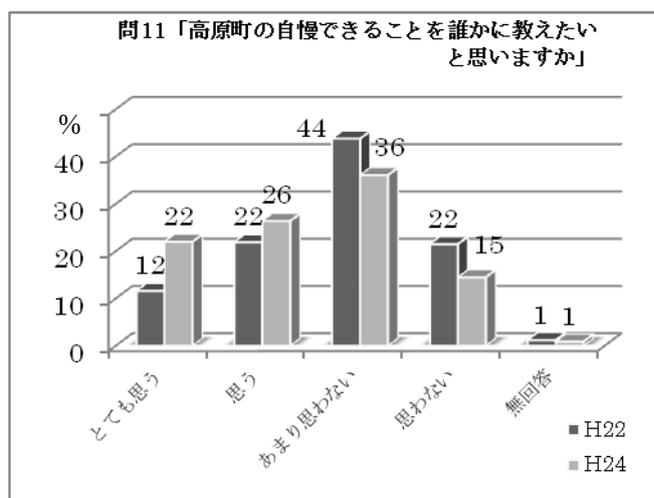
低い項目については、何らかの手立てを考えていく必要がある。



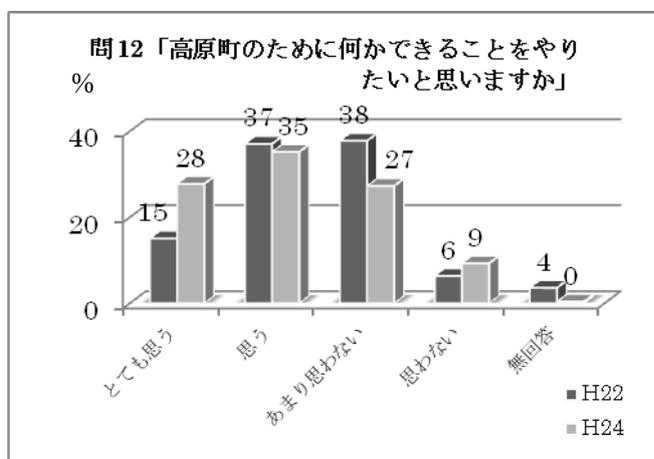
問8の「高原町のことで、『もっと知りたい、調べたいと思う』ことがありますか」では、小・中学校共に、「ある」「とてもある」の割合が25%から38%に増加している。ふるさと学習を通して児童生徒の中に、新たな疑問や興味・関心が湧いてきていると考えられる。この疑問や興味・関心をさらに向上させ、ふるさと学習につなげていきたい。



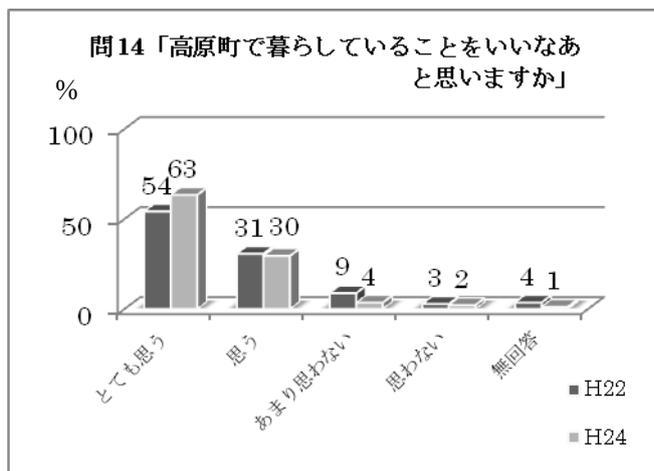
問9の「ボランティアに参加したことがありますか」では、一昨年に比べ、「とてもある」「ある」の割合が54%から59%に増加している。中学校では、地域の人々との触れ合いや、ふるさとのよさを発信することを通して、ふるさとのために何ができるかを考える機会になり、ボランティアに参加する意欲・関心につながったのだと思われる。さらに、学校を通じて、ボランティアの案内や呼びかけなどを行うことも必要である。



問11の「高原町の自慢できることを誰かに教えたいと思いますか」では、「とても思う」「思う」と回答した児童生徒が増加している。小学生においては、ふるさとのことについて学習し、それを自慢として考えることのできる児童が増えてきている。中学生においては、高原町の自慢を高原町内外に発信したことで、自分やふるさとに自信が持てるようになってきたと思われる。



問12の「高原町のために何かできることをやりたいと思いますか」では「とても思う」の割合が増えているが、「思わない」の割合も増えている。「何かできることを」という質問が少々漠然としているためだと考えられる。今、高原町に何が必要で、自分たちに何ができるのかを中学校で考えを深めていくことができれば、「とても思う」の割合が増加するのではないかと考えている。



問14の「高原町で暮らしていることをいいなあと思いますか」の質問では、「とても思う」の割合が小・中学校共に増加している。都会に憧れる児童生徒も少なくないが、これからもふるさと学習を充実させ、本町の歴史や行事、自然、産業など高原町ならではのよさを伝えていくことで、高原町で暮らすことができて嬉しいと感じてもらいたいと考えている。

2 実践研究

(1) 授業のねらい

高原ならではの地域素材を生かした教科の指導を通して、ふるさとを愛する「たかはるの子」の育成を図るため、本研究所が作成した「教科におけるふるさと学習の指導計画、指導過程」に基づき、第6学年「理科」の授業実践を行った。単元名と単元の目標は以下の通りである。

単元名	「大地のつくりと変化」
目 標	身の回りの地層などを観察し、地層のつくりやでき方を推論しながら調べ、大地は長い年月と大きな空間的な広がりの中でつくられ、変化してきたという考えをもつことができるようにする。また、火山活動や地震による大地の変化と災害とを関係づけて調べ、大地の変化をとらえるとともに、自然の力の大きさを感じ取ることができるようにする。

(2) 指導計画（全17時間：本時11／17）

7 8 9	わたしたちが住む大地のつくり (1) わたしたちが住む大地は、どんなつくりになっているのだろうか。 観察2 大地のつくり 近くに地層の見られる場所があれば、見学に行く。	思・表② 地層のようすと大地の構成物とを関係づけて、地層の広がりを推論し、自分の考えを表現している。(発言・記録分析) 技能③ 野外観察を行ったり、ボーリング試料などを使ったりして、地層のようすを調べ、結果を記録している。(行動観察・記録分析)
10	(2) 大地のつくりについて、まとめよう。	知・理② 地層は、礫、砂、泥、火山灰及び岩石からできており、層となって広がっていることや、長い年月をかけて変化していることを理解している。(記録分析・ペーパーテスト)
11 (本時) 12	大地の変化 (1) これまでに起こった火山活動では、大地にどんな変化が見られたのだろうか。 資料調べ1 火山活動による大地の変化と災害 新燃岳噴火の写真や、「百人の記録」を活用する。 御池は、周囲約4km、深さ103mの、わが国で最も深い火口湖であることを紹介する。	関・意② 火山活動によって起こった大地の変化や災害などに関心を持ち、調べようとしている。(発言・行動観察)
13 14	(2) これまでに起こった地震では、大地にどんな変化が見られたのだろうか。 資料調べ2 地しんによる大地の変化と災害	関・意③ 地震によって起こった大地の変化や災害などに関心を持ち、調べようとしている。(発言・行動観察)
15	(3) 調べてわかったことや考えたことをまとめて、発表し合おう。	思・表③ 火山活動と地震に関する調べ活動の結果をまとめて発表したり、人々の生活との関連について考えたりしている。(発言・記録分析)
16	今まで調べてきたことをまとめる。	思・表④ 学習を振り返り、自分なりのことばでまとめることができている。(行動観察)

(3) 授業の実際

ア 本時の目標

火山活動によって起こった大地の変化や災害などについて関心をもち、調べようとする。

イ 主な学習活動と授業の様子

主な学習活動	授業の様子
<p>1 新燃岳噴火時の写真を見る。</p> <p>※ 4人でグループを作る。</p> <p>2 学習課題をつかむ。</p> <p>これまでに起こった火山活動では、大地にどんな変化が見られたのだろうか。</p> <p>3 調べる見通しを立てる。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 噴火による大地の変化・ 噴火によって生じる災害・ 御池、狭野神社・ その他 <p>※ 4人が1つずつ調べる。</p> <p>4 資料を活用して調べる。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 教科書、本・ 新燃岳「百人の記録」・ 新燃岳噴火時の写真・ 冊子「霧島山」 <p>※ 同じものを調べる人で3人一組のグループを作り、調べていく。</p> <p>5 本時の確認と次時の予告をする。</p> <p>※ どこまで調べたか、元のグループに戻って報告する。</p>	<p>【新燃岳噴火時の写真】</p>   <p>噴火前と噴火後では、こんなに違うんだ。</p> <p>【資料を活用して調べる児童】</p>  <p>災害のことを「霧島山」の冊子で調べよう。</p>  <p>狭野神社と火山の関係が分かった。</p>  <p>火山で島ができたり、湖ができたりするんだね。</p> <p>【グループでの報告】</p>  <p>他のグループのことがよく分かったよ。</p>

ウ 授業の感想（児童）

- 「御池」が火山の噴火でできたことは知っていたけれど、日本一深いことは知らなかったのので、新しく知ってよかった。
- 「御池」が火山でできて、深さが日本一ということや、狭野神社が一時期高崎町に移転したことなどが分かり、よい勉強になりました。
- 高原町の知らないところを新たに知った。そしてふるさとへの思いが一層強くなった。
- また火山と狭野神社・御池の関係について、詳しく調べたいと思いました。狭野神社が噴火でいろんな所に移転したことが分かりました。

VII 成果と課題

1 成果

- 総合的な学習の時間におけるふるさと学習の地域素材をデジタル化し、各学校に配付したことで、どの教員も活用できる体制を整えることができた。
- 昨年度の研究をもとに、「教科におけるふるさと学習の指導計画・指導過程」を作成し、検証授業を実践することができた。検証授業の成果としては、主に次の2点が挙げられる。
 - ・ 地域素材を提示することで、調べようという意欲面の向上が見られた。
 - ・ 資料が多様で、準備がしっかりされていた。また、児童からの資料の準備もあり、効果的だった。
- ふるさと学習を実践していくことで、ふるさと高原のことを肯定的にとらえる児童生徒が増えてきた。

2 課題

- 高原ならではのふるさと学習をより一層推進していくため、地域素材の開発や人材の確保が必要である。
- ふるさと学習の実践を通して、総合的な学習の時間や教科の指導計画・指導過程を更に工夫・改善していく必要がある。

【参考文献】

- 小学校学習指導要領解説「社会」・「理科」 文部科学省
中学校学習指導要領解説「社会」・「英語」 文部科学省
平成23年度 調査研究報告書 教育研究論文集 高原町教育委員会

平成24年度 高原町教育研究所 研究同人

所 属	職 名	氏 名	所 属	職 名	氏 名
教育委員会	所 長	江田 正和	狭野小学校	教 諭	森 茂人
教育委員会	研究指導員	濱砂 敬三	後川内小学校	教 諭	柿並 祐次
高原小学校	教 諭	亀川 晶弘	高原中学校	教 諭	川崎 彩
広原小学校	教 諭	中別府 靖	後川内中学校	教 諭	日高 恵子